

伊藤外科ニュース



102 号

2013. 01 発行

10 年目を迎えて

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年の冬はとても寒いですが元気で年末年始を過ごされましたか。幸いに、伊藤外科のスタッフは皆元気に仕事始めを迎えることができました。今年も健康で少しでも皆さんの手伝いをしたいと考えています。

さて、以前お話ししたように私の慈恵医大病院時代の専門領域は消化器外科でした。しかし、伊藤外科の院長となり 10 年が経過し今は地域医療、すなわち総合医として貢献できればと考えています。

恩師からは、よく「医学博士号や専門医の免状は一つの領域の物事を解決する術を身に着けた証であり、今後の解決すべき諸問題を検討して行く資格を持ったに過ぎない。」と言われました。開業医として外来で多彩な病状を拝見し診療して行くうえで、恩師の言葉を肝に銘じておかなければと思っています。

また、伊藤外科に定期的に来院される方は、高血圧、糖尿病に代表される成人病、胃潰瘍などの消化器病の方と腰痛や膝関節痛などの整形疾患の方が多く、初めて来院される方は外傷、腹痛、感染症の方が多い傾向にあります。

新宿には多くの大病院があり、優れた各領域の専門医もおりますので必要に応じて彼らの力を借りながら医療に従事して行きたいと考えています。

ところで、他界した父より院長職を継承した 10 年前に伊藤外科は手術室を閉鎖し、今は外科医としては切り傷の縫合やおできの切開手術を行う程度の外科治療を行うのみです。

そこで医療機関名としての伊藤外科を変更するかどうかを私は悩んでおります。私は、伊藤外科というさほど大きくない医療機関で昭和 30 年代から多くの医師やスタッフが 24 時間外科系の救急医療の仕事をしている中で幼少期を過ごしました。そのため、伊藤外科の名前に思い入れがあります。

しかし、現状の医療をあまり反映していない事も事実です。この件に関してはゆっくり考えてみたいと思います。

年明けはインフルエンザや感染性胃腸炎の患者さんの治療から始まりました。まだまだ寒い日が続くと思いますが、今年も皆さん健康でお過ごしください。



伊藤外科 HP <http://www11.ocn.ne.jp/~itoh-hp>

(バックナンバーは HP にて公開中です)



番外編 伊勢の神宮 式年遷宮の年

今年は伊勢神宮で、20年に一度の式年遷宮が行われる。そのため、年始から伊勢神宮を扱ったテレビ番組がすでにいくつも放送されている。

一般的に「伊勢神宮」と呼ばれているが、実はこれは正式名称ではないらしい。正式には「神宮」それだけ。全国にあまたある神社のなかでも、皇祖神・天照大御神を祭る特別なところなので、「神宮」といえばすなわち、伊勢の神宮を示すわけである。

で、式年遷宮とは何か？ すごく簡単に言ってしまうと神宮の神様のお社をはじめ、装束、神宝などすべてを新品にするのが遷宮である。日本の神様の世界で大事にされていることのひとつが「常若」という概念だ。歳月は1年目、2年目、3年目と積み重ねて数える（年を取る）のではなく、毎年、大晦日でリセット。正月にまっさらな一年が始まると考える。これは古くからの日本の文化である。式年遷宮はこの「常若」という考え方を示すもののひとつで、20年に一度、なにもかもを一新し（更新）、神威の永続性を確保していただくというわけだ。ちなみに装束など神々のご用に供する調度品は全部で189種・491点にも及ぶという。新しい社殿の建築を含め、式年遷宮の準備には8年もの歳月がかけられている。

今回で62回目を迎える神宮の式年遷宮はいつから始まったかということ、第41代持統天皇の時代、西暦690年が最初であるという。そもそも、神宮の始まりはいつか？ 古事によると、天照大御神が伊勢の五十鈴川のほとりにご鎮座されたのは、第11代の垂仁天皇の世というから、今から2000年ほど前の話である。ひとり鎮座されて不自由された天照大御神はその後、食を司る豊受大御神をおそばに呼ばれた。伊勢の神宮には「内宮」と「外宮」があるが、内宮に天照大御神が、外宮に豊受大御神が鎮座されている。7世紀から律令国家体制がはじまり、国史の編纂を立案した第40代・天武天皇が、式年遷宮など神宮の制度を創設。実際に第1回の式年遷宮が行われたのは、天武天皇没後、皇后が女帝として即位（持統天皇）してからのことである。

と、駆け足で伊勢の神宮や式年遷宮について、にわか仕込みの解説を披露してしまった。といったわけで、今年は神宮関連の出版物やテレビ番組が多くなるだけでなく、江戸時代のおかげ参りよろしく、伊勢への旅行者が例年に増して増えそうである。式年遷宮の最大の神事「遷御」は10月。ただし、当然のことながら神事は公開されない。それでも10月前後に神宮に行きたいと思う人が多いらしく、すでに神宮界限どころか松阪あたりまでの宿が予約でいっぱいだという。その多くは旅行会社がパッケージツアー用に押さえているのだろう。10月下旬の神宮参拝ツアーがビックリするような高値で紹介されていた。

神様は逃げないので、慌てて行くことはない。神宮は人が多い時期より、できるだけ静かな時に行くほうが断然いいと思う。太古から手付かずの森、清浄な五十鈴川、まったく華美なものがない境内……。「神宮にはイデオロギーと関係のない普遍の世界がある」、本で読んだ神宮の大宮司のこの言葉が、すべてを言い表していると思う。（一弓）